

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 あゆむ
施設名	あゆむ保育園
報告者（役職）	甲斐 純代（園長）
住所・連絡先	熊本県菊池郡菊陽町津久礼 2386-1
	☎ 096-233-0785
	E-mail kikuyoubpen@if-n.ne.jp

○タイトル（保育計画）

がんばるもんもん・あゆむもん

○主な助成備品

・砂場枠・ジャングルジム

1. 保育計画策定の目的

子どもと共に、保護者の思いに寄り添いながら一步一步あゆんで行こうと「あゆむ保育園」（認可外）を立ち上げ10年経過した平成28年4月1日から小規模保育事業「あゆむ保育園」として認可されました。

開園2週間後 4月14日PM9:25に震度6弱、4月16日AM1:25に震度6弱の熊本地震を経験し、職員も保護者も被災している状態の中、幸いにも保育園は壁紙のクラック50か所はあったものの緊急補修を行い4月18日から保育を開始できる状態に整備できました。

突然やってくる余震と向き合いながら、職員と共に子ども達の安全確保。職員の心身、精神的な疲れを緩和しながら、日々の保育に取り組みました。

子ども達は毎日が「あそび」です。子ども達は遊びの中で育ちます。遊びを通して、「積極性・集中力・運動能力・協調性・意欲」などが身についていきます。

10年間、認可外保育で使用していた、遊具の劣化に伴い、子ども達が思い切り遊べる、砂場の整備とジャングルジムの新設を計画策定しました。

2. 具体的な実施内容

① 砂場の整備

旧砂場枠（保護者と共に作成した木枠）を取り外し弾力のあるカラフルな砂場となりました。

砂場遊びをしているこどもたちはみんな楽しそう。

泥んこになりながら、手や道具を使って夢中で遊びます。

心が解放されて、十分に遊びこむことができます。

ハイハイヨチヨチの0歳児も手足を使いながら砂場へ入り

砂の質感を楽しみ手のひらでつかんだり指でつまむ

仕草をします

1歳児は、バケツや器に砂を入れたり出したり、何度も何度も繰り返して遊んでいます。

2歳児になると、道具を上手に使いこなし、ままごとに見立て差し出したり、園庭に咲いた花や葉っぱをデコレーションして見たりします。



② ジャングルジムの設置

劣化したすべり台に変えて「ジャングルジム付きのすべり台」にしました。

つかまり立ちや伝い歩きをする0歳児も戸外に出るとジャングルジムへ興味をもち、周りをグルグル回ったり、空間認知力が未熟な1歳児、2歳児も好奇心を持ち登っていましたが、降りることができず、助けを必要とする子もいました。1度登ると自信が付き何度もチャレンジしています。



3. その成果と評価

① 子ども達の心と体を解放できる砂遊び

時々「ドン！」と音がしたり、窓ガラスがガタガタと鳴ったり、些細な震度にも表情をこわばらせ、保育士に駆け寄ったり、「こわい！」と口ずさむこともありました。(平成28年4月～12月にかけて体に感じる地震が2043回発生・・・気象庁データ)

私たちは、子ども達の不安要因に丁寧に対応していき、「大丈夫だからね」「ここにいるよ」と手をつないだり、わらべ歌を歌ったりと、こども達の気持ちに寄り添い楽しい体験をすることで、日々だんだんと日常の生活に戻ってきました。

特に「砂遊び」は、つまむ、握る、引っ張る、押すなど、手や指先、からだを使って大胆に穴を掘ったり、道具を使って容器に詰めたりと、夢中で遊びこんでいました。又言葉のやり取りが盛んになり、「みてみて」「プリン」「どうぞ」「かして」「だめ」などの言葉が出てきます。保育士の仲立ちにより、子ども同士の関わり方を少しずつ見つけるようになり社会性、協調性が育ってきました。



② 「できる」「できない」「やってみよう」「できた」ジャングルジムの楽しさ

1, 2歳児の子ども達の手足運動能力(跳ぶ、ぶら下がる、投げる、蹴る)は未分化で、日々の運動遊びの中から育ってきます。

日々の保育の中に、ふれあい遊び、バランス遊び、リトミック、を取り入れ、筋力、持久力、身体認識力、空間認知力や移動系運動スキルを養っていくようにすることで、のぼりかけてやめていたジャングルジムを上り下りできるようになりました。

4. 今後の課題と展望

今回の助成による砂場の整備とジャングルジムの整備ができたことにより、一人一人の子どもが持っている力が存分に発揮でき、こどものもやりたいことができる環境創りが補強できました。

平成29年10月に社会福祉法人 あゆむ としての運営になったこともあり、これからも保育の質を高め、常に子ども達と共に、子ども達の気持ちを丁寧に理解して、寄り添い、やりたい気持ちを尊重しながら保育環境づくりを職員とともに力を合わせていきたいと思えます。

以上